

研究・調査報告書

報告書番号	担当
309	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>A low blood ethanol level is associated with improved cytokine production in aged mice after traumatic injury.</p> <p>外傷性傷害後の加齢マウスでは低い血中エタノールレベルがサイトカイン産生の改善と関係がある</p>	
執筆者	
Plackett TP, Jarrett J, Gamelli RL, Kovacs EJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Trauma. 2005 Oct;59(4):984-9.	
キーワード	
エタノール、加齢、火傷、サイトカイン	
要 旨	
<p>外傷性障害を負った際に大量のアルコールを消費している場合、予後が思わしくない場合が多い。筆者らは低容量のアルコール摂取をした時の外傷性障害への影響をマウスで調べた。3ヶ月、18ヶ月のマウスに体表面の15%に及ぶ火傷を負わず30分前にエタノールを投与した。エタノールは腹腔に注射し、外傷の30分後に60-80mg/dlの血中アルコール濃度になるようにエタノールを投与した。火傷の24時間後、遅延型過敏性反応、脾臓細胞の増殖、インターフェロンγ、インターロイキン-2、インターロイキン-4を調べた。この結果、18ヶ月の加齢マウスではアルコール投与により、インターフェロンγの増加が見られたが、3ヶ月の若いマウスではインターフェロンγの増加は見られなかった。また、18ヶ月の加齢マウスではアルコール投与によりインターロイキン-2、インターロイキン-4、遅延型過敏性反応のわずかな増加が見られたが、若い3ヶ月のマウスではこれらのことは観察されなかった。以上より、加齢マウスでは外傷性傷害時の低い血中エタノールレベルが部分的に免疫応答の回復に関連していることが示唆された。</p>	